



なぞって練習

息子や娘は母の態度を
飽き足りない歯がゆい
もののように思っ
尻になっ
世への未練をお見せす
るよう
俗縁のあつた方に惜し
んで泣いていた
はともかくもだがとい
うよう
を突いたり、目くばせ
をしたりして兄弟ど
うしで赤し合っていた。
源氏は乳母を憐んで
いた。

■ 参考

※肱【ひじ】

※憐れんで【あわ】

(青空文庫のフリガナより)